



新潟県立長岡工業高等学校同窓会東京支部会報

東京支部だより

第 21 号

発行人：支部長 金井 博光

編集：会報編集委員会

ご挨拶

支部長 金井 博光 (S44M)

新型コロナウイルス対策で 5 回のワクチン接種を経験しました。感染対策が日常化しております。今ではマスク生活が当たり前となり、装着している時の安心感と外す事の抵抗感が共存しております。こんなコロナ禍ですが、昨年 10 月 22 日（土）に母校創立 120 周年記念式典が懐かしさの残るあの体育館で行われました。記念すべき式典に参加できた事で多くの感動をいただきました。

5 月 17 日の「記念のぼり旗」贈呈式から始まり、8 月 3 日には創立 120 周年記念の大花火打ち上げ、10 月 22 日の記念式典ではインターネットでのライブ中継、及び午後からの交流懇親会と、全ての行事を完遂された関係者皆様のご努力と実行力に深く感謝申しあげます。当初、生徒は教室の TV からライブ中継での 120 周年記念式典を見守る計画でしたが、長井英幸校長の想いから「3 年生だけでも同席させたい」が実現し、粋な計らいは県の教育委員会を納得させての実現だと推察しております。

山下進同窓会長が提唱する「振り返って 前を見る」を基本に同窓会が主体となった 120 周年記念行事も多々実施されました。「振り返って」は、東大工学部機械工学科の第一回卒業生であった荒川新一郎初代校長の紹介に始まり、マンドリンクラブによる演奏を CD-ROM 化したり、創立 120 周年記念号として発行した小史には、母校の歴史や歴代の長工大賞が全て収録されたりで記念に残る保存版となりました。

「前を見る」では、これから育つ後輩に託す意味から、長工インターネット放送局の開設、体育館への大型スクリーンとプロジェクターの設置、ロボット制御を学ぶアーム型ロボットの提供等、技術者養成に向けた設備を寄贈しております。ロボットは新潟県からの予算も得て、二台を同時利用することができるようになりました。

これらは、同窓の皆様を始め応援いただきました企業や団体からの寄付を受けて実現できました。教育設備は準備できましたが、これからは「技術者を育て上げる仕掛け」が必要となります。今後は関係各位が試行錯誤の連続になると考えます。母校の教職員の努力と継続性に期待するのは勿論ですが、同窓としての役割も重要になると考えます。企業がどの様な技術者を望んでいるのか、その技術者を育成するには企業としてどこまで踏み込んだサポートができるか。長岡地域産業の未来を見据えた発展のため、日本全体の工業界のため、私達同窓が果たすべき役割は何か、第一戦をリタイヤした同窓であったとしても、今でも役に立てる部分は無いのか、等が後輩に期待される同窓会になると感じております。

父兄においては工業高校に入学させるからには、自前のノートパソコンを買い与え、3D の設計ソフトや、それが動く高性能 PC を用意する等の出費も念頭に、我が子の未来を見つめる必要があると考えます。学校の設備だけでは自宅に戻ってからの予習復習はできません。自宅でも PC で学べる環境が必要です。

卒業してゆく生徒の半数は就職で、残り半数が進学の時代になって来ました。究極な話をすれば工業高校の定員は半数で良く、残りは普通高校でも良い事になります。

母校の存在意義を見直す時期に入って参りました。今回の寄贈品を活用し、長岡工業高等学校出身者が貴重な技術者として、価値ある人材として、世に送り出せるよう同窓会の役割も変わってゆかなければと感じました。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◆*◆*◆*◆*◆*◆*◆*◆*

創立 120 周年記念式典を終えて

長岡工業高等学校 校長 長井 英幸

長岡工業高等学校同窓会東京支部の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。創立 120 周年記念事業では、長岡工業高等学校同窓会の皆様から、教育環境の整備として、「体育館に大型スクリーン（300 インチ）とプロジェクター」、「実習機器（CNC フライス型）及び DENSO ロボット COBOTTA」を寄贈いただきました。ありがとうございました。末永く、大事に使用させていただきます。

令和 4 年 10 月の創立 120 周年記念式典においては、新型コロナウイルス感染症の対応から、来賓、同窓会、企業、保護者、全校生徒が一堂に会した式典にすることができませんでしたが、式典会場の体育館の参加人数を制限して、3 年生は式典に出席させ、1・2 年生はオンラインによる各教室での参加としました。在校生に創立 120 周年について

会員だより

随想

顧問 樋口 昭(S29E)

昨年母校 120 周年は偉大で有り、その記念式典等 関連祝賀行事は実に意義深いもので有った。「人生の『峠』は～苦楽 120 の峠を越えて～」に相応しいもので有り同窓生の誇りで有る。本部、関係各位の労を犒います。

国際情勢は驚くべき想定外の変転を強いられている。新型コロナ禍は 3 年過ぎとなり、感染防止の基本を守り、With COVID-19 に生き、生活の向上を図る。

露軍 ウクライナ侵略戦は長期化停戦の予測不能、停戦には双方が納得し世界的な大義名分が必要である。核戦争に発展することも想定し、対応が必要である。ウクライナ国民の愛国心、国土防衛、義務感、情熱等、国民感情は如何ばかりか、80 年前の日本国の一億総決起に想いをする。早期に安全・平和を祈る。豊かな穀倉地帯に戻って欲しい。

中、北、台の情勢等、国際秩序を擁護する我が国は「反撃能力強化」自主防衛は費用を要することは当然の事。増税を拒む諸氏に問う、我が国の繁栄、国民の生命財産をどう守るのか、その真意を聞き度。

一森の火事で生き物たちが逃げ惑う中で、1 羽のハチドリがくちばしに水を含んで一滴ずつ落した。「そんなことして何になる」の声に「私は 私に出来ることをしているだけ」。南米に伝わる「ハチドリのひとしずく」の物語—に思いをする。

安倍事件、統一教会等々、日本の安全神話の崩壊、憂える。地球温暖化、異常気候変動に依る自然災害の防御。—日本雨水資源化システム学会に席を置く者として一、「恵の雨」、雨水利用から、1 時間雨量 100mm、24 時間降水量 400mm ゲリラ豪雨対策が急務で有る。5 月に広島で G7 サミット開催、世界の首脳者会議 地域情勢の違いはある、主導役割を果たして、国連安全保障理事として世界平和、繁栄に努めて欲しい。

時代は変われど尊い日本の伝統文化、道徳、武士道の厳守、伝承を望む。社会構造が改革と成るも、同窓会の目的「会員の親睦、交流、絆」「母校の教育方針の支援」等、120 年余の伝統ある長工精神「質実剛健」を継承・堅持し、多様化する価値観を受容し、各種・各界と交流親交を広め見聞を深め「共通の価値観の創造」が同窓会活動を活性化するものと思います。

世代が繋がる

心が結ばれる

同窓の絆は永遠

を理念に長工精神を継承し、伝承し、東京支部の発展を願い、母校、本部の益々のご隆盛をご祈念申し上げます。

長工健児此処に在り

国の栄をいざ図れ

◆*

日本経済の現状

松永 巖(S20M)

私が大学院 3 年を終えて昭和 28 年入社した時の初任給は 5,260 円、昭和 25 年卒業と同時に大洋漁業に入社した者が最高で月 1 万円。比較して高い方ではなかったが、34 年後の定年退職の時の月給は有に 100 倍の 50 万円を遥かに超えていた。それに較べて現在入社時の何倍になっているか？ 私は国力の伸びの違いと思う。昭和 20 年代と言えば、終戦後間もない頃で、国民一同働く事に情熱を燃やしていた。私などは世界中を飛び廻って新機種を探した。現在未曾有の金融緩和、日銀が印刷した札は何处へ行った、我々の懐に入る事なく。金で金を儲ける族(やから)に行ってしまう。つまり、少しも生産に寄与する事なく「死せる金」になる。金は仕事に廻さなければ意味がない。米国三菱重工を設立した時に、時の三菱銀行の中村俊男頭取が全米の支店長を連れて見えた時、私は「金を借りてくださいではなく、仕事を持って来てください。そうしたら金は幾らでも借りてやる」と言ったら、頭取は「今の話聞いたか？ その通りだ」と言われた。今の政府も「給料上げろ！！」ではなく、政府が「こんな仕事を出すから働いて稼げ」と言うべきである。終戦後仕事が無かった頃、政府は戦中沈んだ船舶の補充と油を始めとする物流のための大形船建造を進め「第五、六次計画造船」と銘打って受注、建造の援助をした。何んな仕事でも良い。例えば「全国の電線地下埋設」「自然エネルギー開発」「森林の再開」「台風、洪水等の自然災害対策」「魚類養殖」等々、政府が援助すれば大仕事になる。又将来の夢を追うプロジェクト「電池で飛ぶ電気飛行機」「金魚鉢のような立体テレビ」「物質の伝送」「万能半導体」等々考えただけでも楽しくなる。

何故日本が弱くなったか？ 私はコスト・ダウンを追求したからだと思う。何でも価格競争すれば良いもの、新しいものは出来ない。入札制度も問題。手抜き、材質のグレード・ダウン、データーの改ざん、下請けいじめ等の不正を誘発。低コストを求めて中国、東南アジアに製造を移せば技術の流出と国内の空洞化を生じる。今將にこの状態にあると思う。コストが多少上がっても良い。仕事を早く取り戻して皆が仕事をする事だ。国力が着けば日本円も強くなる。金融緩和一本槍の日銀の政策も大失敗。働かない族を増やし、貧富の差を拡げ、日本を空っぽにした。中小企

名簿担当統括理事 塩入 晴夫(S46M)

卒業年	科別	会員 No.	お名前	ご逝去年月日	備 考
昭和 24	電気	S24E	吉村 修一 様	令和 4 年 8 月 23 日	
昭和 27	機械	S27M	山本 貞夫 様	不明	
昭和 29	電気	S29E0310	二宮 守栄 様	令和 4 年 9 月 27 日	
昭和 29	機械	S29M042A	吉川 榮三郎 様	令和 4 年 8 月 29 日	
昭和 31	電気	S31E0200	反町 忠夫 様	令和 4 年 5 月 31 日	
昭和 33	電気	S33E0380	柳 秀次 様	令和 4 年 7 月 7 日	
昭和 33	機械	S33M	大平 悦三 様	令和 4 年 8 月 3 日	
昭和 35	機械	S35M002A	池田 邦夫 様	令和 4 年 5 月 30 日	
昭和 37	電子	S37e0170	佐藤 昭彦 様	令和 4 年 5 月 30 日	
昭和 37	機械	S37M026B	館野 進 様	令和 3 年 11 月 20 日	
昭和 38	電気	S38E	木村 誠治 様	令和 4 年 4 月 27 日	
昭和 38	機械	S38M010B	内山 伸夫 様	令和 4 年 6 月 4 日	
昭和 45	化学	S45C0370	山田 文夫 様	令和 4 年 5 月 4 日	



ホームページ担当統括理事 奈良場 慶三(S46E)

このHTMLとCSS及び画像をブラウザ（EdgeやChrome）でアクセスすることでホームページとして見るができます。ブラウザは一時期IE、Opera、Chrome、Firefox、Safariなど多くのアプリがありブラウザによって画面表示が違ふということがありました。このため、ホームページを作成したあと何種類かのブラウザで画面を確認する必要がありました。現在はW3Cが勧告した「HTML5」からWHATWGが取り決めた「HTML Living Standard」が標準仕様となり、マイクロソフトもIE(W3C)からEdge(WHATWG)に移行しています。



広報・記録担当統括理事 川村 吾一(S36E)

今後共伝統ある「東京支部だより」発行に格別のご支援・ご協力を賜りたく何卒よろしく願います。



委員長	川村 吾一	(S36E)	委員	塩入 晴夫	(S46M)
委員	永井 利矢	(S44M)	委員	今井 広	(S46M)
委員	竹津 弘幸	(S46E)	委員	野崎 敬策	(S46e)
委員	加藤 智	(S40C)	委員	中島 義春	(S46e)
委員	奈良場 慶三	(S46E)			

